

未来への記憶の遺産

——原爆資料をどう継承するか

Memories for the Future:
How to Pass Down A-bomb Archives as a Living Testament



日時

2025年7月19日(土)
13:30~16:30 (開場13:00)

会場

広島国際会議場
地下2階 ヒマワリ
広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内

主催／広島市立大学広島平和研究所
中国新聞社
長崎大学核兵器廃絶研究センター
後援／一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構

基調講演者

栗原 淑江 (ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 資料庫担当)

報告者

落葉 裕信 (広島平和記念資料館学芸展示課学芸係長)

水川 恭輔 (中国新聞社編集委員)

山口 響 (長崎大学核兵器廃絶研究センター特定准教授・客員研究員)

モデレーター

四條 知恵 (広島市立大学広島平和研究所准教授)

日本被団協のノーベル平和賞受賞にともない、ノルウェー・オスロのノーベル平和センターでは、被団協の活動を紹介する展示が行われ、関連する写真などの資料が展示されています。「資料」は原爆被害を記録し、伝える手段として、直接語りかける被爆体験証言とともに、重要な役割を担ってきました。被爆者が高齢となり、原爆被害を直接語ることのできる人が年々少なくなる中で、その重要性は、ますます高まっています。

被爆80年を迎える今年、日本被団協の資料を含む、資料を残すためのこれまでの取り組みを紹介しつつ、未来に向けてこれらの資料群をどのようにつないでいくのか、その課題を改めて考えます。

先着450人

入場無料

〈事前申込不要〉

直接会場へお越しください。

ノーベル賞委員会

ヨルゲン・ヴァトネ・
フリードネス委員長からの
ビデオメッセージ

※事前収録した映像を上映します



©Nobel Prize Outreach,
Photographer: Agnete Brun.

基調講演者 Keynote Speaker



栗原 淑江

Yoshie Kurihara, Member of No More Hibakusha Project-Inheriting Memories of the A- and H-Bomb Sufferers

1947年東京生まれ。一橋大学在学中から被爆者調査に関わる。同大学社会調査室の助手を経て、80～91年に日本被団協事務局員。93年～2013年に被爆者に自分史を書くよう呼びかけ、書く人・読む人の交流紙「自分史つうしん ヒバクシャ」を計240号発行、約200人から寄せられた延べ800編を載せた。11年から現職。

報告者 Speakers



落葉 裕信

Hironobu Ochiba, Curatorial and Exhibition Division Chief Supervisor, Hiroshima Peace Memorial Museum

2000年(平成12年)に(公財)広島平和文化センターへ学芸員として入職し、広島平和記念資料館学芸課(現在の学芸展示課)に配属。これまで資料館の常設展示のリニューアルや「廃虚にフィルムを回すー原爆被災記録映画の軌跡」(2009年)、「礎を築くー初代館長 長岡省吾の足跡」(2020年)などの企画展示に携わる。



水川 恭輔

Kyosuke Mizukawa, Staff Writer, The Chugoku Shimbun

中国新聞社編集委員。東京大学文学部卒。中国新聞社入社。報道部、備後本社などを経て2022年より現職。被爆75年企画「ヒロシマの空白」などの取材に携わり、2024年8月から広島の実地記録写真などを時系列で伝える被爆80年企画「ヒロシマ ドキュメント」を担当。



山口 響

Hibiki Yamaguchi, Program-Specific Associate Professor, Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University (RECNA)

1976年生まれ。*Journal for Peace and Nuclear Disarmament* 編集長補佐。研究関心は原爆後・戦後の長崎の歴史で、共編著に『原爆後の75年ー長崎の記憶と記録をたどる』(書肆九十九、2021年)。「長崎の証言の会」で被爆証言誌の編集長、活水高校などの非常勤講師も務める。

モデレーター Moderator



四條 知恵

Chie Shijo, Associate Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University

広島市立大学広島平和研究所准教授。早稲田大学第一文学部卒、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程修了。博士(比較社会文化)。長崎大学多文化社会学部客員研究員などを経て、2021年より現職。専門分野は、原爆被害の記憶・表象研究。著書に『浦上の原爆の語りー永井隆からローマ教皇へ』(未来社、2015年)。

ノーベル賞委員会

フリースペース委員長からのビデオメッセージ

フリースペース委員長は2021年にノーベル賞委員会の委員となり、2024年2月に史上最年少の39歳で委員長に就任しました。同年12月のノーベル平和賞授賞式では、日本被団協と被爆者たちについて「絶え間ない努力によって核のタブーを築き上げてきた」とその功績をたたえ、「次の世代へ体験談や記憶を語り継ぐことは私たちの責任だ」とスピーチで訴えました。国際シンポジウム開催に際して、これまでの取り組みを踏まえた形での未来への継承について、ビデオメッセージをお願いしました。

※上映は、当日の状況により変更の可能性もございますので、あらかじめご了承ください。



■ビデオメッセージ以外に関するお問い合わせ先

広島市立大学広島平和研究所

TEL: (082) 830-1811 FAX: (082) 830-1812

Eメール: office-peace@m.hiroshima-cu.ac.jp

